

## プレワークショップ 概要報告書

分科会名	プレワークショップ 先進自治体から学ぶ～父親支援の戦略と具体的方法～		
実施日	平成24年2月17日(金)	実施時間	9:30-12:00
会場	石楠花1.2	参加人数	79人
登壇者	<p>パネリスト：佐藤美穂（大分県福祉保健部子ども子育て支援課主幹）  石川美千代（四日市市福祉部児童福祉課主幹）  有本和晃（芽室町子育て支援課主査）  東浩司（ファザーリング・ジャパン理事、横浜市子ども青少年局の代理として）</p> <p>コーディネーター：安藤哲也（ファザーリング・ジャパン代表理事）  吉田大樹（ファザーリング・ジャパン理事）</p>		

### 概要報告書

#### 事例発表

有本氏○育児ネットめむろの協力が大きい

○めむろパパスイッチの始まり

→安藤氏の講演を聴き、町の課長にスイッチが入った。（上司が入ると早い）

→助成金を取得し、育児ネットめむろへ依頼。

→父親交流サイト、親子イベントを現在行っている。

東氏 ○トップ（林市長、山田副市長）が育児支援に力を入れている。とくに父親支援。

○昨年度より横浜イクメンスクールを開催している。

○企業向きのワークライフバランス講座も市の事業で行っている。

○サイト「ヨコハマダディ」を開設し、パパ向けに多数の情報を発信している。

石川氏○父親マイスターの設立

・パパの口を開かせるにはレクリエーション

・6回講座を完了した人に認定（各講座の後半が交流会）

・Happyよかパパ設立

・動機付け→モチベーション→雰囲気→思いの共有→得意分野の発揮

・1期生が2期生を育てる

佐藤氏○子育て満足度日本一を目指す、という施策を組む

○県としては有配偶者出生率、男性就業率ワースト1位をどうにかしたい

○県上層部自らが、育休を取る

○連続講座を行い、パパくらぶを作る

○父子手帳→パパはデータと字の少なさが重要

#### <まとめ>

- ・講座に来ていないパパが問題
- ・まずは核となるメンバーで楽しく行う
- ・県と市がもっと協力して推進してはどうか？
- ・肩書きが大事（マイスター、バッチなど）
- ・発表させると能動性が高まる
- 連続講座の重要性